

今回は、第4回「さくら塾」の報告です。

◇ 朝日大学の田口嘉彦先生から、看護系学科受験のお話をうかがいました！

日時： 2020年10月9日(金) 15:50~17:00

場所： 関高等学校教室

講師： 田口嘉彦先生 朝日大学入試広報課高大連携推進室 進学アドバイザー

演題： 「看護師をめざす」

参加者： 看護系学部学科を志望する生徒 24名

内容： 看護師という職をめざす心がまえや、自身の考えや修得した知識を相手に確実に伝達するスキルについての具体的な対策、医療に関わる基礎的知識や情報を収集するための実践的指導。

◇ 生徒の感想



■今回は看護師の職業としての現実味のある話が聞けて、とても自分の身になったことを感じた。2025年問題は私は知らなかったし、私が就職する時の問題ということはとても関わってくることだから、もっと調べて面接で何を聞かれても自分の意見を持って話せるように準備しようと思った(いただいた資料をもとに次の日から紙にまとめて自分の意見を書き出しています)。

■今までも、最近の医療系に関わるニュースを探したり、そのことについて考えを深めたりしていたが、

医療の最前線で起きていることや、知らないことがたくさんあって、さらに深く考える機会になり参加してよかったと思った。いただいた資料集を何回も読みたいと思う。ていねいに詳しく説明していただきありがとうございました。

■ガイダンスありがとうございました。看護師になるためにこれから向き合っていく現代の諸問題について知ることができました。資料もたくさんいただいたのでこれから読んでいきたいです。私は看護師の資格を取得したうえで助産師をめざします。頑張ります。

■今日は朝日大学の進学アドバイザー、田口嘉彦先生にお話を伺った。ドラマの中で憧れていた看護師の職業にすごく現実味を感じた時間だった。確かに、看護という職業は、人の命を預かるわけで、当然のことながら学生時代には勉学に励まなければならない、働きに出れば、夜勤があり、常に生死の境に立ってドクターと患者とともに奮闘しなくてはならないため、大変だと言うことは今までにたくさんの人から聞き、自分の中では知っていたつもりだった。

しかし、違った。「がん病棟に配属されたら、病んでいる患者さんを相手にするわけだから、患者さんから想像もしていないきつい言葉を投げつけられることもある。救命救急なんかに行けば、テレビドラマに出てこない厳しい現実があるんだよ。足の骨が膝から飛び出す、刃物が胸に刺さったまま運ばれてくる、駆けつけた現場は血塗れ、なんてことはざらにある。現実にね」とおっしゃっていた。確かに、テレビドラマのドクターや看護師らはかっこよか



った。憧れた。しかし、かっこよさで志望した自分は甘いと、今日、心の底から感じた。それは、田口先生のお話が、生々しく医療のリアルさを物語っていたから。だからこそ、自分は今一度看護師を志望する理由や志望動機、なりたい看護師像などを考え直す必要があると思った。看護師は普段何をしているのかということだけでなく、受験・面接・小論文対策はもちろん、看護師になったその後のことまで、事細かく教えていただき、本当に良い機会となった。まずは、まずは大学に受からなければ何も始まらない。今日の講話は、勉強の意欲をも湧かせてくれた。

自分の思い描く看護師になれるよう、今後も頑張っていきたい。

■4年制大学と短大、専門学校具体的な違いは今まであまり知らなくてこんなに丁寧に教えていただける機会はなかったのととても有難かったです。2025年には超高齢化社会になって若者が減って看護師の人手も減って今よりもずっと大変になることを知りました。将来はそれを解消するためにAIを使う社会になるのかなと思っているけど、看護は患者さんの身体だけじゃなくて心もケアするもので病院内で患者さんの一番近い存在は看護師だと思うので、いつの時代になっても看護の仕事は必要だと思いました。

■今回は看護師の進学ガイダンスの話を聞いてとても良かったです。大学で学ぶメリットや、現在の問題となっていることなど多くの話をうかがいました。私が特に印象に残ったのは2025年問題です。2025年は私たちが看護師になる年で、団塊世代は私の祖母の世代でもあり、とても身近に感じました。日本人口の5.6人に1人が75歳以上の後期高齢者となることに驚きました。超高齢社会となる日本では在宅医療の充実による医療提供と生活の質の向上や、訪問看護ステーションの機能強化などの医療支援から生活支援と変化していることが分かりました。また、志望動機や小論文、面接試験についても話が聞いてとてもためになりました。小論文や面接試験の対策として課題となりそうな事柄をたくさん知っておかなければならないと知り、これからテレビのニュースや新聞などで知識を得るために意識して生活していこうと思いました。受験や将来のための良い機会となり、改めて看護師になりたいという思いが強くなったのでとても良かったです。貴重な話をありがとうございました。

■初めて知ることがとても多くて勉強になった。2025年問題のようなこれからの日本の様々な問題や、看護や医療の社会問題で聞いたことのないことや、難しそうなのがたくさんあったから、新聞を読んでしっかり勉強したり、自分なりにいろいろ考えてみようと思った。小論文の書き方や志望動機の考え方、面接対策など入試に役立つ情報をたくさん聞くことができてよかった。看護大学に行くということは看護系の職業につくということが決まると聞いて、改めて受験がとても大切だと改めて感じたから、聞いた話をしっかり活かして受験の対策をしたいと思った。

■今回の講話を聞き、看護師は医者と患者や家族との間に立つ仕事だということが一番記憶に残りました。このことは言われてみれば当たり前のことなのかもしれないけれど、私も家族が入院し、最期を迎えるまでいつも不安でした。その時、医者の指示を専門的な知識のない家族に教えてくれたのは看護師だったのを思い出しました。そのためにコミュニケーション能力や、日々変わる医療への関心を持ち続ける力を備えたいと思いました。

また保健師について質問をした時、保健師の良さを交えて質問に答えてくださっていたのおかげで、ずっと目指してきた保健師という仕事を志望理由に書く自信が持てました。そして私はまだまだ医療に関係する知識が浅いと感じたので、今回頂いた資料や講話を参考にしながら、コツコツと知識を積み上げていきたいと思いました。